

平成18年2月22日

関係各位

(財)日本バスケットボール協会

規則の変更について

FIBA(国際バスケットボール連盟)は、2005年5月18日、19日にスイスのニヨンで行われたセントラル・ボード(中央委員会)において、現在施行されている競技規則の一部を変更することを決定し、採択した。

今回採択された規則の変更点は、チャージド・タイム・アウトおよび交代に関するものであり、FIBAの主な公式大会においては2005年10月1日より実施されている。

(財)日本バスケットボール協会は、変更点の内容を検討し、国内においては、2006年4月1日(平成18年4月1日)より実施することに決定した。

今回の変更点は競技規則の一部分にのみ関するものであるため、あらたに競技規則書は発行しないが、チャージド・タイム・アウトおよび交代にかかわる現行の規則書「2005～バスケットボール競技規則」の条文や規定(解説も含む)で、以下に述べる変更点と矛盾する部分については、2006年4月1日以降(平成18年4月1日以降)は、すべて以下に述べる規定が優先されるものとする。

競技規則の変更点は、以下のとおりである。

- 最後のフリースローが成功したときは、どちらのチームにもチャージド・タイム・アウトや交代が認められる。このとき、チャージド・タイム・アウトや交代が認められる時機は、スロー・インをするプレイヤーがボールを持つ前までである。
- ファウルの罰則で、フリースローののちオフィシャルズ・テーブルから遠いほうのセンター・ラインの位置でフリースロー・シューター側のプレイヤーにボールが与えられスロー・インでゲームが再開されるときは、そのフリースローが成功してもしなくても、最後のフリースローのあとに(スロー・インの前に)、どちらのチームにもチャージド・タイム・アウトや交代が認められる。このとき、チャージド・タイム・アウトや交代が認められる時機は、スロー・インをするプレイヤーにボールが与えられる前までである。
- 第4ピリオドまたは各延長時限の最後の2分間に、次のようなチャージド・タイム・アウトが認められた場合は、チャージド・タイム・アウトのあとゲームを再開するスロー・インは、オフィシャルズ・テーブルから遠いほうのセンター・ラインの位置から行う。
相手チームがフィールド・ゴールまたは最後のフリースローで得点したときに、得点されたチームにチャージド・タイム・アウトが認められた場合
チャージド・タイム・アウトを認められたチームのバック・コートから、そのチーム(チャージド・タイム・アウトが認められたチーム)にスロー・インのボールが与えられてゲームが再開される場合
このとき、スロー・インをするプレイヤーはセンター・ラインの延長部分をまたいで立ち、コート内のどこにいるプレイヤーにボールをパスしてもよい。
このとき、スロー・インをするチームは、フロント・コートにボールを進めたとみなされ、8秒の制限は終わったことになる。

以上